

1. 評価結果概要表

平成20年 11月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2070102781
法人名	社会福祉法人善光寺大本願福祉会
事業所名	グループホーム 川田の宿
所在地	長野県長野市若穂川田1358-1 (電話) 026-282-6751

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(20年 10月 25日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤2人	非常勤20人 常勤換算8.05人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月 25日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 87.6 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	峯村医院(循環器・胃腸・外科) 立岩医院(内科) 川田歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会法人善光寺大本願福祉会が経営する長野市東部に位置する若穂川田に「川田の宿」はある。善光寺大本願故法王が「長年ご苦労いただいた高齢者が老後を健やかに送ることが出来るようにしたい」という思いから「ぬくもりと笑顔あふれるユートピア」として特別養護老人ホームユートピアわかほが設立されることを機に老人福祉の拠点としてこの若穂の地に展開された。住み慣れた地域の中で馴染みの関係を保ち、「高齢者のもう一つの我が家・安住の場」を理念に運営されている。定期的に地区のボランティアが作物や畑の世話も手伝ってくれ、新鮮な野菜で食事作りをしている。また、自治会に加入し地域の草刈や講習会の参加もしており、運営推進委員会の支援も受け、地域の関係を深めている。看護師の充足により、医療連携も充実され、安住の場として安心して生活出来るホームに今後の希望が感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での「理念」についても分かりやすく変更された。また、金銭管理帳の報告と一人ひとりの状況報告とを一緒に毎月、家族への報告が出来るようになり、改善課題を一つ一つ検討しよりよいものを作っていくという意欲が窺えた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価票を配布し個々に評価してもらい、全体のケア会議の中で検討し自己評価票の作成を行った。毎日の業務の振り返りとなり、見直しの機会になった。特に今回、プライバシー保護については、気づきとなることも多く職員なりの工夫や話し合いの機会が多くもたれ業務の改善への取り組みとなった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。地域への認知症の理解のための機会にもしており、ホームの運営、サービス内容の報告にとどまらず、多くの意見が出され、意見交換が活発になされている。地域との関係を深めていくために推進委員の方からも積極的に意見が出され提案がなされている。管理者も提案を有効に活かしながら地域の一員としてのまた、ホームの役割としての取り組みに積極的に対応している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関入口に意見箱の設置がされている。特に苦情はないが家族が面会に見えたときには意見、要望を聞くように努めており、気軽な雰囲気では話が出来るように工夫をしている。また、家族に毎月状況報告をしており家族の安心につながるようにしている。今年からは、医療面での充実のため、看護師の充足がなされ、安心して入居できるような対応も行った。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入している。地域の草刈や総会、講習会の参加も行っている。ボランティアも定期的に来ておりホームの畑の管理の手伝いをしてくれる。四季折々には、祭りや運動会への参加、やしゅうま作り、詩吟のボランティアなども来てくれる。防災訓練には地域から消防団や区長などの協力もあり定期的に行っている。川田の拠点として地域交流を深めている。今後は、ホームの近隣の方の協力も得ながら災害訓練が出来るように期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人善光寺大本願福祉会の基本理念から自分らしく暮らす。「もうひとつの我が家・川田の宿」にふさわしいグループホームの5つの基本理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の見やすい廊下や居間に掲示されている。管理者と職員がケア会議などで話合い、理念を基本にケアプランの作成をしている。事業計画の中にも組み込み、日々の支援の実践につながるよう努力している姿が窺える。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員となっており、草刈りや地区の会議に参加している。また、天気の良いときは散歩に出掛け地域の人とは顔馴染みである。地区の運動会、お祭り、行事への参加もし、また、ホームの夕涼み会に近所の方も参加していただくなど、地域の一戸としての交流を行っている。定期的なボランティアが来ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価については、ケア会議で説明し管理者、職員全てに自己評価票が配布され評価を行った。職員が全員集まるケア会議で話し合いを行い評価票をまとめた。職員は、何気なく行っている業務を考える機会となった。外部評価の結果を事業計画に反映し業務改善に積極的に取り組んでいる姿が窺えた。		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議は開催されており、運営・サービスの報告・外部評価への取り組みなどの報告がされる。報告にとどまらず、推進委員からの積極的な意見が出され事業計画へ反映されている。近隣保育園との交流会など会議の中から提案され、準備を進めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターとは、身近な相談窓口として高齢者の相談を行っている。市町村には、事業所の運営についてなど随時に相談している。毎月1回、定期的にあんしん相談員が訪問し利用者の話を聞いている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書や金銭管理帳報告書と共に、生活・身体状況などや行事案内を送付している。また、家族の面会時には日々の様子を伝えたり、受診時の状況や体調の変化のあるときは随時報告している。また、運営推進会議の報告書も送り、ホームの理解を深める工夫もしている。以前は、ホーム便りを発行していたが今は中止となっているため、今後、発行できるように準備をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口の設置要綱を設け、入所時にも説明している。玄関先には意見箱を設置しているが特に今のところ苦情がない。面会時には、家族が話しやすい雰囲気を作り意見を聞くように努めている。運営推進会議の報告も送付しており外部者、職員へ意見を表し、運営反映できる場もある。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は開所以来、管理者、計画作成担当者が法人の都合で代わった。ホーム側も馴染みの関係で関わっていけるように職員の採用時にも事前実習をしてもらったり、離職につながらないように管理者は、スーパーバイザー的役割としても努めている。</p>		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画や研修案内は皆に公表し、職員が希望する研修会になるべく行かれるようにしている。管理者は、多くの人が研修会に参加できるように配慮している。また、認知症ケア、口腔ケアの研修に参加しケア会議で報告会を開き、職員間で共有も図っている。毎日の業務の中で今回は、プライベートという点に注目し対応を考え、難しさも感じたとも言う。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームネットワークができ、2ヶ月に1回、定期的に参加し勉強会、情報の交換も行っている。全国認知症グループホーム協会に加盟している。相互訪問などの活動には至っていない。「相互評価」という提案もなされているが、具体的にはまだ実施に至っていない。今後の取り組みを期待したい。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>出来る限り、利用者や家族に面接時にグループホームに実際見に来ていただき、様子を知ってもらう。一人ひとりの個性を大事にしながら生活が出来るように家族などと相談しながら利用できるように工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の盛り付け、食事の片付けなど利用者が出来ることは一緒におこなっている。笑顔が出るように日常生活の中で共に生活するもの同士がお互いの気持ちを押し図りながら、生活を支えあっている様子が窺えた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活暦や家族からの情報を基に、一人ひとりの個性を大事に今までの生活スタイルから共同生活になれない人がいても、他利用者とトラブルになることなく気持ちよく生活できるように生活様式なども含め検討している。また、外出などのときも本人が楽しみをもち外出できる工夫などにもつながっている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族からの希望と本人の意向を確認しながら日常生活全体の状態を踏まえ介護計画を作っている。担当制になっており担当職員がアセスメントを行い職員が意見を聞き、介護計画が作られる。ケア記録の書式についても何回も見直しをしながら計画に基づいた記録が出来るように工夫している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には6ヶ月ごとの計画の見直しとなっている。日々の会議の中で変化がある人は話し合いをし、作り直している。2ヶ月に1回は定期的なケア会議があるため話し合いをする。見直しの必要のない人なども毎日の申し送りやケアノートの確認でサービスの継続になっている。ケア計画は家人に説明され同意を得ている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診などは基本的には家族にお願いしている。家族の都合によりホームで行うこともある。また、遠方の家族の人はホームの職員が行っている。利用者の希望により毛染めなどの外出の支援なども行っている。医療連携加算も今年度から開始され、家族への説明、了解の上、開始している。</p>		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居してからもかかりつけ医は引き続き主治医となっているため、信頼関係は保たれている。看護師の配属がなされてからは、受診の際に情報が共有できるように支援している。プライバシーには十分配慮しながら必要な医療機関に受診ができる支援も行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看護師の配属がなされ、医療連携加算の実施がなされるようになった。看護師の採用後、直ぐに看取りをホームで行うことになり、この経験から家族への対応、生活している利用者への配慮、馴染みの職員への対応など大きな学びの場になったようである。重度化・終末期ケア対応指針も作成され、今後は、本人、家族との終末期についての話し合いの場ができ、段階的な同意書作成も必要と思われる。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護などについては職員に十分説明をしている。個々のプライバシーについては、今回ケア会議でも何回も議論されプライバシーに配慮した声かけの方法なども検討した。業務方針などに謳われており日常ケアの注意点となっている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>外出や散歩などのときも利用者の気持ちが優先でありその人の気分や体調に合わせて行っている。食事時間などについても延食なども行い、一人ひとりの今まで培ってきた生活ペースに配慮した支援をしている。</p>		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の希望やホームの畑で採れた四季折々の野菜など利用し、利用者の力量や役割の中で、いつの間にかお茶を入れてくれる人、テーブルを拭く人、食器片付けをする人、盛り付けをする人など一緒に行う場面も見られる。職員も一緒に食事をし、楽しい食事となる様に場作りの工夫も行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は、基本的には週2回以上となっている。入浴が嫌いな人もいるため、時間やタイミングを見つけて入浴が出来る工夫をしている。夏場に汗をかいたときには、入浴が出来るなど利用者の状況に応じた入浴の支援がされている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>今まで暮らしてきた生活歴や利用者の力を活かしながら毎日の生活の中で春先など良い時期が来れば、畑に出掛け職員と一緒に苗を植える者、食事の盛り付け、準備、片付け、などそれぞれが出来る役割を持ち生活している。ゲームを行ったり詩吟のボランティアなどとの楽しみの場もある。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良いときは、散歩に毎日のように出掛けている。食材の買い物などにも利用者の希望で出掛けたりする機会もある。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵は日常的には掛けないように努めている。利用者が不穏なときには、安全のため、道路側のフェンスを閉めることはある。中玄関にはチャイムが設置されており利用者が出て行ってしまったときに分かる様に工夫もしている。利用者の見守りや声かけを行い、対応での工夫に努めている。</p>		

グループホーム川田の宿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に2回の防災訓練を行っている。地元地区と「災害に関わる協力支援協定」を取り交わしており、地域の区長や地域推進委員の方の協力を得て行っている。今後は、地震を想定した訓練の実施も予定しているという。</p>		<p>地区役員や運営推進委員の協力はあるが、直ぐ近隣に住む住民の方からの協力支援についても、お互い近隣として助け合う体制作りとして必要と考えられる。また、誰もが災害時に利用者を救出する手立てが分かるような工夫も今後検討されることを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの身体状況に応じた食事内容、形態の考慮がされている。食事量の低下など問題のあるときは法人内の特養の栄養士に相談しアドバイスを受けた食事に行っている。食事の低下が見られるときは細かな食事摂取記録をとるようにしている。</p>		<p>高齢となると食事量の低下、水分量の低下は直ぐに発熱や身体機能低下に結びつきやすい。大体の食事量の把握でなく、どの利用者も食事、水分量の把握が出来るように食事、水分摂取記録などの作成がなされ、身体状況変化への対応に早め出来るようにしていくことが望ましい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースは、2つのユニットでそれぞれの利用者の個性に合わせたスペース作りをしている。個性の強い人がそろうユニットでは一人ひとりが自分の空間を過ごせる配慮が行われており、食卓テーブルも個性に合わせた配置を行っている。グループで楽しめるユニットでは皆が一同を介して座れる大きなテーブルを配置している。その中にも他人に邪魔されない自分だけの空間を作るソファも置かれている。自然な明るさも窓越しから流れこんで穏やかな雰囲気がかもし出されていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の今までの生活からベットの利用者や畳で布団を敷いている利用者があり、自宅と同様のスタイルを継続できるように配慮している。写真や仏壇を持ち込むなど自宅暮らししていた延長のように調度品もそろえている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。